

第 11 回「産業観光まちづくり大賞」受賞団体決定！

公益社団法人日本観光振興協会（本部：東京都港区 会長 山口範雄）では、このほど、第 11 回「産業観光まちづくり大賞」の受賞団体として、下記のとおり金賞、経済産業大臣賞、観光庁長官賞、銀賞 各 1 団体を決定いたしました。本賞の概要、及び本年度受賞団体の概要につきましては、別紙をご覧ください。

なお、受賞団体の表彰式は、平成 30 年 1 月 25 日（木）、愛知県半田市にて開催される「全国産業観光フォーラム in 半田」の式典において執り行います。

<第 11 回「産業観光まちづくり大賞」受賞団体>

金賞
桑名市産業観光まちづくり協議会／
エイベックス株式会社
（三重県桑名市）



エイベックス株式会社 工場見学風景

経済産業大臣賞
大阪糖菓株式会社(コンペイトウ王国)
（大阪府八尾市）



八尾工場の様子

観光庁長官賞
田舎館村むらおこし推進協議会
（青森県田舎館村）



平成 5 年から始まった田んぼアート「岩木山」

銀賞
一般社団法人岩見沢市観光協会
（北海道岩見沢市）



ワインタクシー&畑（宝水ワイナリー）

産業観光まちづくり大賞は、観光による地域振興の新しい手法として注目されている「産業観光（産業遺産や、現在稼働している工場・工房などを活用した観光）」による観光まちづくりを実践し、他の地域の模範となる優れた事例を表彰する制度で、平成 19 年度に創設されました。産業観光に取り組む地方自治体、観光協会、商工会議所、NPO、商店街、企業等を対象に、幅広く募集を行い、受入側と訪問側に双方のメリットがあるビジネスモデルになっているか、またその継続性があるかなどを主な評価の視点として審査を行いました。

第11回「産業観光まちづくり大賞」について

1. 概要

(1) 主催

公益社団法人日本観光振興協会・全国産業観光推進協議会

(2) 募集対象

産業観光に取り組む地方自治体、観光協会、商工会議所、NPO、商店街、企業等

(3) 表彰内容

- ・金賞
- ・経済産業大臣賞
- ・観光庁長官賞
- ・銀賞
- ・その他状況に応じ、特別賞、奨励賞等を設けることとする。

※金賞、銀賞については、過去3年以内に同賞を受賞している団体は対象外とする。

(過去の受賞団体は、<参考 過去の受賞団体一覧>を参照)

2. 評価の視点

<基本ポイント 各5点 計45点>

- ①顧客価値 (顧客への提供手法の斬新さ・ユニークさ)
- ②対象資源 (対象とする資源の固有性・希少性など)
- ③編集視点 (対象とする資源をストーリーとして提供しているか)

※経済産業大臣賞選定ポイント

④事業性 (収益が見込める事業として展開しているか)

⑤ビジネス創造 (新たなビジネス機会の拡大が図られているか)

※観光庁長官賞選定ポイント

⑥誘客力 (産業観光の展開により、観光客の誘致に成果をあげているか)

⑦商品力 (産業資源を素材とした商品造成により、観光客の誘致に成果を上げているか)

⑧国際性 (国際的視点や外国人観光客の誘致に向けた取り組みが図られているか)

⑨連携 (他地域との連携による広域的な産業観光の推進が図られているか)

3. 審査方法

(1) 審査委員による事前審査 (10/6~10/24) 審査対象：全9応募団体

(2) 審査委員会 (10/31)

4. 審査委員

役職	所属	職名	氏名
委員長	学校法人東洋大学	理事長	福川 伸次
副委員長	構想博物館・多摩大学	館長・名誉教授	望月 照彦
委員	公益財団法人日本交通公社	会長	末永 安生
"	全国産業観光推進協議会・東海旅客鉄道株式会社	副会長・相談役	須田 寛
"	株式会社 玄	代表取締役	政所 利子
"	経済産業省商務・サービスグループクールジャパン政策課	課長	清水 幹治
"	観光庁観光地域振興部観光資源課	課長	蔵持 京治
"	(公社)日本観光振興協会	理事長	久保 成人
"	(公社)日本観光振興協会	副理事長	久保田 穰
"	(公社)日本観光振興協会総合調査研究所	特別研究員	丁野 朗
事務局	(公社)日本観光振興協会	常務理事	天野 啓史
"	(公社)日本観光振興協会総合調査研究所	副所長	伊藤 博之

第 11 回産業観光まちづくり大賞受賞団体の概要及び評価のポイント

金賞 桑名市産業観光まちづくり協議会／エイベックス株式会社（三重県桑名市）

【産業観光の活用の経緯と現状】

エイベックス株式会社はトヨタ系の自動車部品メーカーであり、製品の製作や販売だけが自社のサービスではないという観点から、60 年以上培ってきた自社のノウハウもサービスになるのではと考え「海外からの工場見学事業」をスタートさせた。

現在では、口コミとリピートのみで世界 50 か国以上から年間 3,100 名（累計で約 15,000 名）の企業研修団を受け入れている。外部からの見学者受入により、従業員の意識が高まり、リーマンショック以降毎年 10～20%程度の増収をあげている。

近年では、その取り組みを地域創生の一つと位置づけて桑名市とその周辺企業との連携で活動を波及させていくこととなり、海外の研修団にむけて幅広い企業見学の機会を提供し続けている。平成 28 年には、桑名市の新たな観光の軸として「産業観光」が位置付けられ、「桑名市産業観光まちづくり協議会」が設立された。

また、地域市民や次世代の地域を支える人材に対して、地域の魅力ある企業を伝える活動の推進にも取り組んでおり、今後は、「産業教育観光」として、より幅広い人たちに国際交流や企業を知る機会の提供を通じて、地域の活性化を支援していく。

【評価のポイント】（審査委員より）

- ・「産業教育観光」という、これまでにない新たな視点・手法が目からうろこ。産業資源を「理念や思想、こだわりや風土」にまで広げてとらえる視点も素晴らしい。しかも、この企業が取り組みをスタートさせ、核となって地域の製造業、飲食、教育、金融、物流等の企業にも拡大し、地域ぐるみの取り組みにまで拡大させている点が高く評価できる。
- ・官民が協力して取り組んでおり、その中で企業側が積極的に受入や企画を担当しているのは高く評価できる。単なる企業視察でなく、企業が持つノウハウ、経営陣との意見交換等を研修対象とする点がユニークであり、今後のビジネス機会の拡大等、更なる発展も期待される。
- ・自社製品だけでなくノウハウなどのソフト面を資源にする着眼点を評価。また単なる視察旅行ではなく有償でのビジネススキーム構築も重要な要素である。さらには協議会を通じて桑名地域を素材として業態を超えて連携展開していることは素晴らしい。今後のさらなる発展に期待する。



桑名市役所の見学 桑名市市長との記念写真



イオンモール桑名施設見学風景

経済産業大臣賞 大阪糖菓株式会社（コンペイトウ王国）（大阪府八尾市）

【産業観光の活用の経緯と現状】

製造メーカーだけではお客様の生の声が届かない、モノを作っているだけでは発展しない、金平糖というお菓子だけが持っているその特殊な製造工程と歴史を皆様に広く知って頂きたい、そのような思いから「見て・聞いて・作れる体験型空間」というキャッチコピーを掲げ、平成 15 年にコンペイトウミュージアム（観光サービス業）を開設した。規模の小さな堺プチミュージアムにはじまり、同年秋には八尾本社にもミュージアムを開設。金平糖の手作り体験の他、工場内の見学も可能であり、職人の大変さや金平糖への熱い思いを体感することができる。

平成 24 年には福岡にも開設し、多い年では 3 店合計で、2 万 5 千人もの人が体験教室を利用している。社長や会長、スタッフが奇抜なキャラクターに扮することで、メディアにも注目されており、国内外に金平糖の知名度を広めている。体験教室はすべて有料であり、平成 25 年～28 年の観光売上は全体売上の 1 割以上を占めている。

ミュージアムの開設は周辺地域の発展にも寄与しており、地域の観光関連団体とも協力し、地域活性につながる活動にも取り組んでいる。また、金平糖というお菓子自体の普及にも尽力しており、今後はコンペイトウ王国のお城のような更なるワクワクドキドキを提供できるようなミュージアムを作り、金平糖の更なる普及に努めたいと考えている。

【評価のポイント】（審査委員より）

- ・一企業の実践する「産業観光テーマパーク」のファンタジアを感じる。
- ・地味ながらもユニークな取組みを継続し、全ての参加者を楽しく・幸せな気持ちにさせてくれる。
- ・日本文化体験を目で見て、作って楽しめる丁寧なプログラムで、手づくり工房のスタイルを基本とした事業運営をしており、地域を代表する産業観光になっている点を高く評価したい。
- ・時間のかかる金平糖の製造を見ることができるところに価値がある。オリジナルの金平糖も魅力的。
- ・日本の伝統菓子である金平糖の希少価値を生かした取組みとして興味深い。単にコンペイトウミュージアムによる集客だけでなく、他の観光地との連携により経済効果を生み、次世代の人材育成にも繋げている。今後、インバウンドの誘致や更なる他企業との連携等により地域活性化に貢献されることを期待。
- ・金平糖というユニークな食材、王国の登場人物など物語性に富んだコンテンツである。信長とのかかわり、堺という歴史都市との連携から、さらに多くのストーリーが生まれそうで楽しみである。



若手職人の育成、技術継承



マレーシアからの団体客来訪

【産業観光の活用の経緯と現状】

「田舎館村むらおこし推進協議会」は昭和 62 年に発足した協議会で、村、農協、商工会で構成されており、村の産業活性化のために、観光開発やイベント開催などの活動を行ってきた。平成 5 年から始まった「お米」にこだわったイベント「稲作体験ツアー」は、弥生時代からの北方稲作文化を今に伝えるために、昔ながらの手作業で田植えから稲刈りまでを行っている。

その中で、こめづくりの楽しさ、農業のおもしろさをより多くの人に知ってもらうために、色の異なる稲を使って稲文字を描いたのが田んぼアートのきっかけとなっている。「稲作体験ツアー」は今年で 25 回目をむかえ、いまでは人口 8,000 人の村に、村内外から 1,300 名が参加するビッグイベントに成長した。

平成 24 年度には第 2 田んぼアートも造成し、田んぼアートの観客数も第 1、第 2 を合わせて、のべ 34 万人（平成 28 年度）にもものぼる。平成 24 年から見学のための入館料を徴収しており、田んぼアートによる収入も年々増加している。平成 27 年度からは第 2 田んぼアート周辺に、田んぼアートの技術を応用した「石アート」も制作し、惜しまれる人と題して肖像画を石で描いている。

また、青森県の弱点である冬季観光を活性化しようと、青森県と共催で「冬の田んぼアート」を実施。スノーアートをメインとして、雪をテーマにしたイベントを開催した。

田舎館村の田んぼアートは、全国に先駆けたものであり、田舎館村むらおこし推進協議会では、田んぼアート発祥の地として、全国への田んぼアート普及に取り組んできた他、「全国田んぼアートサミット」の開催や「全国田んぼアート連絡協議会」顧問就任など、田んぼアートを実施している地域の中心となって、田んぼアートの更なる PR、ブランド化の確立に尽力している。

【評価のポイント】（審査委員より）

- ・ 25 年継続して取り組まれてきた点は素晴らしい。稲作をアートの観点から観光と結び付け、着実に観光客の増加、事業拡大へ繋げている。「田んぼアート」による観光地域づくりを全国規模にしたことも評価。一方で冬期対策や収益性向上に向けた具体的施策を実施、自立型モデルとして今後の展開に期待をする。
- ・ 全国的な田んぼアートブームの中で同地域はリーダー的役割をもつ。垂柳遺跡や埋蔵文化財センターとの連携でストーリーづくりもうまく、米と組み合わせた発想も新しい。
- ・ 東北という季節が限定されがちな地域が、通年型観光地として取り組むモデルとして、今後、地域の特産品や周辺観光地との連携、旅行商品造成等のさらなる展開を期待したい。



平成 29 年第 2 田んぼアート「桃太郎」



石アート「石原裕次郎」

【産業観光の活用経緯と現状】

北海道岩見沢市を中心とした「空知（そらち）地区」には、現在 10 軒のワイナリー、ヴィンヤードがあり、今後もワイナリーオープンや新規就農者が見込まれ、ワインブームが盛り上がりつつある。観光素材としては、ワイナリーでの試飲や直売所限定ワイン購入の楽しみは勿論のこと、南フランスを彷彿とさせる「ぶどう畑」の景色も良く、映画の撮影舞台となったワイナリーもある。

このような点在する小規模ワイナリーを基軸として、そらち地区の観光素材を多くの方に周知し、気軽に訪問していただき、さらに、ワイン関連だけでなく、地域の食材、観光資源を広く PR して観光振興につなげるべく、ワインツーリズムとして「そらちワイン&フード タクシー」事業を平成 28 年度より開始している。ワイナリーへ向かう道路は狭く分かり辛いので、タクシーであれば迷わず、ワイナリー訪問時の楽しみでもある「試飲」を全員で楽しめ、効率的に観光できる。

また、地元住民であるタクシードライバーからのガイドブックでは知り得ない地元情報など、お客様のニーズに対応可能なオリジナル観光の提供を心掛けている。今回、北海道観光振興機構の助成金を活用して、非常にお得な貸切タクシー代金を設定し、話題性を創出した。

平成 28 年度は非常に評判が高く、2 年目の継続実施に繋がった。本ツアーを起爆剤として、そらちワインのブランド確立を図り、観光地として全国へと発信していくことを推進している。タクシードライバーの定期的な学習会の開催によるおもてなしレベルの向上、観光による国内外のマーケット拡大や地元市民の意識改革も意図した協会 Web サイトの一新、動画作成等、官民一体となった観光振興に取り組んでいる。

【評価のポイント】（審査委員より）

- ・ワインを軸にした地域産業として、既に高い評価を積み重ねてきており、新規就農者等の増大等、地域貢献度も高く、インバウンドの期待に応えられる事業として評価したい。観光客からのリピーター率、満足度も高い。
- ・プロモーションツールであるガイドブックが逸品であり、各ワイナリーのこだわりが感じられる。
- ・北海道空知地方というと山側の旧産炭地のイメージが強いが、近年は農地エリアのワインの評価も高く将来性のある取り組み。
- ・観光資源としてワインをとらえタクシー業界、各ワイナリーとの連携による展開は評価。一方で来訪者の約 8 割が道内の為、さらに広域からの誘客、助成制度終了後の料金設定に注目したい。また、ワインは毎年定期購入する根強い顧客層も有する為、来訪を機に旅後の Web サイトによる物産購入等、経済波及効果にも期待ができる。



宝水ワイナリーのぶどう畑



直売所のワイン

<参考 過去の受賞団体一覧>

●第1回「産業観光まちづくり大賞」受賞団体（平成19年度）

- 金賞 財団法人名古屋観光コンベンションビューロー（愛知県）
- 銀賞 釧路市（北海道）
- 特別賞 宇部・美祢・山陽小野田産業観光推進協議会（山口県）

●第2回「産業観光まちづくり大賞」受賞団体（平成20年度）

- 金賞 財団法人浜松観光コンベンションビューロー（静岡県）
- 銀賞 川崎産業観光振興協議会（神奈川県）
NPO法人いくのライブミュージアム（兵庫県）
- 特別賞 栗原市（宮城県）

●第3回「産業観光まちづくり大賞」受賞団体（平成21年度）

- 金賞 北九州市（福岡県）
- 銀賞 函館市（北海道）
益子アートウォーク実行委員会（栃木県）
- 特別賞 横須賀市・横須賀集客促進実行委員会・株式会社トライアングル（神奈川県）
YKK株式会社・黒部市（富山県）

●第4回「産業観光まちづくり大賞」受賞団体（平成22年度）

- 金賞 桐生市（群馬県）
- 銀賞 大垣商工会議所（岐阜県）
- 奨励賞 昭島市（東京都）
社団法人真庭観光連盟（岡山県）

●第5回「産業観光まちづくり大賞」受賞団体（平成23年度）

- 金賞 姫路市（兵庫県）
- 銀賞 会津若松商工会議所（福島県）
- 特別賞 岡谷市・岡谷商工会議所・岡谷市観光協会（長野県）
- 奨励賞 丹後ええもん工房（京都府）

●第6回「産業観光まちづくり大賞」受賞団体（平成24年度）

- 金賞 酒田市・一般社団法人酒田観光物産協会・酒田商工会議所（山形県）
- 銀賞 天草市（熊本県）
- 特別賞 みたけ華ずしの会（岐阜県）

●第7回「産業観光まちづくり大賞」受賞団体（平成25年度）

- 金賞 おおたオープンファクトリー実行委員会（東京都）
- 銀賞 室蘭観光推進連絡会議（北海道）
宇部・美祢・山陽小野田産業観光推進協議会（山口県）
- 特別賞 秋田内陸縦貫鉄道株式会社（秋田県）
静岡商工会議所（静岡県）

●第8回「産業観光まちづくり大賞」受賞団体（平成26年度）

- 金賞 北九州産業観光センター（福岡県）
- 経済産業大臣賞
燕三条プライドプロジェクト・「燕三条 工場の祭典」実行委員会
（新潟県）
- 観光庁長官賞
小岩井農牧株式会社 小岩井農場（岩手県）
- 銀賞 小樽産業観光推進協議会（北海道）
小松市（石川県）
- 特別賞 小坂町（秋田県）
鶴岡織物工業協同組合（山形県）

●第9回「産業観光まちづくり大賞」受賞団体（平成27年度）

- 金賞 知多半島観光圏協議会（愛知県）
- 経済産業大臣賞 新居浜市（愛媛県）
- 観光庁長官賞 三条市（新潟県）
- 銀賞 北海道鉄道観光資源研究会（北海道）
- 奨励賞 生野まちづくり工房井筒屋運営委員会（兵庫県）

●第10回「産業観光まちづくり大賞」受賞団体（平成28年度）

- 金賞 NPO法人神岡・町づくりネットワーク（岐阜県）
- 経済産業大臣賞
すみだ地域ブランド推進協議会／墨田区産業観光部産業経済課（愛媛県）
- 観光庁長官賞
一般社団法人舞鶴観光協会（京都府）
- 銀賞 呉市（広島県）
- 特別賞 八戸まちづくり文化スポーツ観光部観光課（青森県）
- 奨励賞 加古川市（兵庫県）